

家下遺跡

(第3次発掘調査)

平成12年度県単道路改良事業に
先立つ緊急発掘調査報告書

2001. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が家下遺跡

序

このたび平成12年度に発掘調査を実施した家下遺跡の報告書を刊行することとなりました。

発掘調査は、県単道路改良事業に先立って、長野県諏訪建設事務所から委託をうけた原村教育委員会が実施したものであります。

調査の結果、遺跡の中心部から外れていたこともあり、幸いに破壊された範囲は最小限にとどまり、黒曜石を発見しただけであります。また、過去2次にわたる調査を考えあわせると、当地方においては小規模遺跡であることが分かってきました。この成果を今後の遺跡保護に役立てていきたいと思えます。

このたびの発掘にあたり、長野県諏訪建設事務所建設課の方々のご配慮、長野県教育委員会のご指導をはじめ、発掘にかかわる多くの皆様のご協力で深甚なる謝意を表する次第であります。

また、発掘調査報告書刊行にいたる過程において、お世話いただいた関係各位にたいし厚くお礼申し上げます。

平成13年3月

原村教育委員会
教育長 大 館 宏

例 言

- 1 本報告は「平成12年度県単道路改良事業」に先立って実施した長野県諏訪郡原村弘沢に所在する家下遺跡の緊急発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、長野県諏訪建設事務所の委託をうけた原村教育委員会が、平成12年9月18日から28日にかけて実施し、整理作業は平成13年1月5日から2月28日まで行った。
- 3 現場における実測・記録および写真撮影は平出一治が行った。
- 4 執筆は平出が行った。
- 5 本調査の出土遺物、記録等はすべて原村教育委員会で保管している。
なお、本調査関係の資料には、26の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、原明芳・武藤雄六の両氏をはじめ多くの方々から御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

序

例 言

目 次

I	発掘調査の経過	4
1	発掘調査に至る経過	4
2	調 査 組 織	4
3	発掘調査の経過	5
II	調 査 の 方 法	8
1	位 置 と 環 境	8
2	調 査 方 法	9
III	発見した遺物	11
IV	ま と め	11
	引用参考文献	
	報告書抄録	

I 発掘調査の経過

1 発掘調査に至る経過

県道弘沢・茅野線の改良工事は、継続的に行われてきているが、平成12年度予定地にたまたま家下遺跡（原村遺跡番号26）が所在しているため、その保護については、平成12年5月24日に行なわれた「保護協議」で協議され、遺跡は現状のまま保存していくのが最も望ましいが、道路の幅は狭い上に歩道はないが小中学生の通学路になっていることもあり、子供たちの安全面、また農業機械も大型化していることから、以前から道路改良を望む声が強かったこともあり「記録保存やむなき」との考えに落ち着き、平成12年度に緊急発掘調査を実施し、記録保存をはかる方向で同意をみることができた。出席者は長野県教育委員会文化財・生涯学習課、長野県諏訪建設事務所、原村役場建設課、原村教育委員会の4者である。

その後も協議を進め、長野県諏訪建設事務所から緊急発掘調査の委託をうけた原村教育委員会は、平成12年8月10日には現地で上物の片付け、調査日程等の打ち合わせを行い、9月18日から28日にわたって緊急発掘調査を実施した。

2 調査組織

事務局 原村教育委員会

教育長 大館 宏
学校教育課長 小林 鏗晃
文化財係長 平出 一治
文化財係 中村 恵子

調査団 団長 大館 宏（原村教育委員会教育長）

調査担当者 平出 一治（文化財係長）

調査参加者 発掘作業 小島 政雄 清水 正進 横内かおり
五味さゆり 津金喜美子 小林 りえ
久根 種則 小松 弘 田中 初一
西沢 寛人 小島久美子（順不同）
整理作業 小林 りえ

3 発掘調査の経過

平成12年9月18日 発掘準備をはじめ。

20日 調査区域(枕)の確認、草刈り等をはじめ。

21日 重機によるトレンチ掘りを行い、トレンチ内の精査をはじめが、遺物・遺構の発見はない。

22日 重機によるトレンチ掘り、トレンチ内の精査を行うが、遺物の発見はない。
トレンチに交差する溝状の落ち込みを認め精査を行った結果、溝内には跡が並べられた暗渠排水であった。

25日 引き続き重機によるトレンチ掘り、トレンチ内の精査を行うが、当初考えていたよりも削平が著しく、遺物は発見できないし、遺構を確認するまでに至らない。

26日 引き続きトレンチ内の精査を行い、黒曜石が出土するが、やはり遺構を確認するまでに至らない。

27日 引き続きトレンチ内の精査を行うが、遺構を確認するまでに至らないため、片付けをはじめ。

28日 片付けを行い調査を終了する。

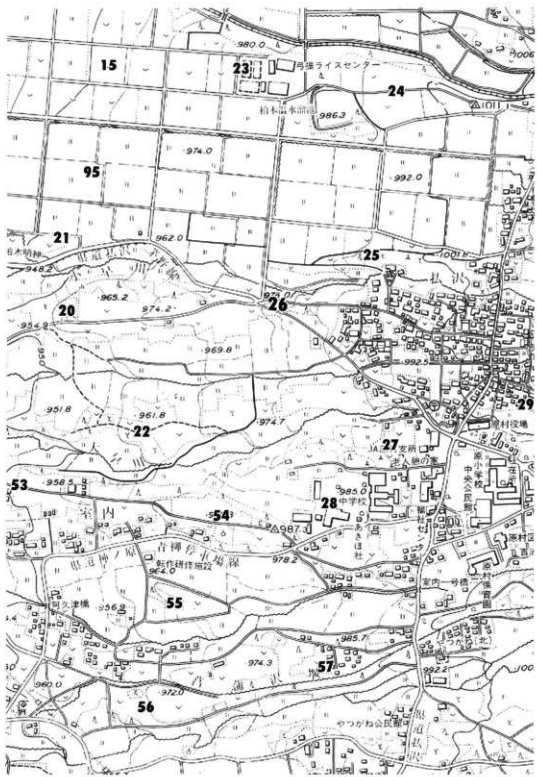


第1図 原村城の地形断面模式図(宮川-家下-赤岳ライン)

表1 家下遺跡と付近の遺跡一覧

○は遺物発見 ◎は住居址発見

番号	遺跡名	旧石器	縄文					弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世	備考
			草	早	前	中	後							
15	程久保		○			◎				◎		○	平成4・5年発掘調査、消滅	
20	前尾根				○	◎	◎			◎	○	○	昭和44・52・53・59・平成9年発掘調査、昭和40年頃一部破壊	
21	上居沢尾根					◎	○					○	平成4年発掘調査	
22	清水		○	○	◎	○				◎	○		平成4年発掘調査、消滅	
23	恩辨西	○	○		◎					◎	○		昭和62・平成5・6年発掘調査	
24	恩辨		○		◎	◎				○			昭和62年発掘調査	
25	裏尾根		○		◎					◎			平成8・10年発掘調査	
26	家下					○				○		○	昭和59・平成9・12年発掘調査	
27	關盛沢					○				○	○		昭和62・平成9年発掘調査	
28	宮平									○	○		村史跡	
29	向尾根					○	○			○		○	昭和50・54年発掘調査	
53	雁頭沢					◎				○		○	昭和54・57・63・平成4・5・9・10年発掘調査	
54	宮ノ下		○			○				○	○	○	昭和57・58年発掘調査	
55	中尾根				○	◎	○			◎		○	平成7年発掘調査	
56	家前尾根				◎	◎				◎		○	昭和51年一部破壊、平成7年発掘調査	
57	久保地尾根					◎							昭和51年一部破壊、昭和25・平成6・7・8年発掘調査	
95	土井平									◎			平成4年発掘調査、消滅	



第2図 家下遺跡の位置と付近の遺跡 (1:10000)

II 遺跡の方法

1 位置と環境

家下遺跡(原村遺跡番号26)は、長野県諏訪郡原村弘沢区の西外れに位置し、南の大早川、北の小早川によって解析された東西に細長い尾根上から斜面に立地している。南斜面は比較的緩やかで、近年は宅地化が進んできている。その南西一帯は県営担い手育成基盤整備事業弘沢地区の工事で平坦化され水田となる。北斜面はきつく、やはりその北側一帯は県営圃場整備事業恩前地区の工事で平坦化され水田が広がっている。

このあたりは八ヶ岳西麓のほぼ中央に位置し、東西に細長く発達した大小様々の尾根がみられる。それらの尾根上には第2図および表1に示したとおり、縄文時代と平安時代の遺跡が多い。

本遺跡に関係が深い縄文時代の遺跡に目を向けてみると、同じ尾根筋の西には原村屈指の集落跡で、顔面付釣手土器をはじめとする数多い土器・石器が発見されたことで著名な前尾根遺跡(原村遺跡番号20)が隣接しているし、北方には中期中葉の集落跡である上居沢尾根遺跡(同21)、中期後葉の集落跡で硬玉が発見されている裏尾根遺跡(同25)があり、南方には中期後葉の集落跡である清水遺跡(同22)、中期中葉の集落跡である雁頭沢遺跡(同53)などがあり、縄文時代中期の大遺跡群が形成されている地域であることは確かなようである。

遺跡は比較的尾根の幅が狭い尾根上から斜面に広がっているが、地目は普通畑、針葉樹林、水田、墓地などである。水田造成による削平が著しい上に、墓地が占める範囲は広く遺跡の中心と思われる尾根上から南斜面に位置することもあり、遺跡の保存状態は良くないようである。

調査対象地の地目は水田と普通畑で、標高は970m前後を測る。なお、原村における遺跡の高度限界は標高1200m前後のラインである。

家下遺跡の発見はそう古いことではなく、昭和48年から諏訪清陵高等学校地歴部考古班が「原村の考古学的調査」と題して実施した分布調査の折に、縄文時代中期の土器片と土器器片を採集し「上居沢遺跡」と呼称したことにはじまる。その報告には次のように記載されている。長くなるが全文を紹介してみたい。

上居沢遺跡

(遺跡番号24)

△ 地 勢 ・ 環 境

弘沢部落の西側に位置し、遺跡の北側に接して弘沢一柏木の舗装道路が走っている。東西が針葉樹林、南は畑地に利用され遺跡も野菜畑である。又、北側には小早川が流れ豊かな水

量を提供し付近は水田に利用されている。海拔は約970mで、黒色土である。

△ 遺 物 土 器

本遺跡からは縄文中期土器多数と土師器3片が採集され、前者は胎土も含有物も似たものが多く、同じような姿を呈している。中には風化の激しい物もあり長石などが含まれていることはわかるが、製作年代については不明である。また、後者にはきれいに裝飾がほどこしてあったり、口縁部で、ろくろの跡が鮮明に残っているものなどがある。

石 器

本遺跡では石器は採集されなかった。

△ ま と め

本遺跡は、かなり狭い範囲でありながら、時間をかけて調査したため割合に採集物も多かったが、それらの表面が摩滅して製作年代がよくわからないことが残念である。

家下遺跡の遺跡名は、昭和54年度に長野県教育委員会が実施した「八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査」の折に改めたものである。

その後、村教育委員会では昭和59年度に村道（前尾根線）改良工事に先立つ緊急発掘調査を遺跡の西外れで実施したが、遺物・遺構を発見するまでに至っていない。平成5年度には県営圃場整備事業恩前地区に伴う立ち会い調査を北斜面で行ったが、急斜面であった上に攪乱が著しくやはり遺物・遺構を発見するまでに至っていない。また、平成9年度には県営担い手育成基盤整備事業弘沢地区に先立つ緊急発掘調査を実施し、縄文時代の打製石斧を発見しただけで、遺構を検出するまでには至らなかった。

このように遺跡外縁部とはいえ2回にわたる緊急発掘調査と、1回の立ち会い調査の結果から当地方においては比較的小規模な遺跡と考えられている。

2 調 査 方 法

準備期間中に数回におよぶ踏査を行ない調査方法を検討したが、遺物を採集することができなかったこと。第3図に示したように道路の幅巾幅という限られた範囲の調査である上に、水田造成による削平が容易と考えられる状態であったため、対象地区全域におよぶトレンチによる調査を行うこととした。

重機でトレンチ掘りを行い、トレンチ内の精査は手作業で遺構の検出につとめた。トレンチ幅は重機のバケット幅である1.2m、総延長は120.8mで、その面積は145㎡である。

調査は原則として層別に行い、ローム層上面ないしは地山の自然露が出土する面までとしたが、当初考えていた以上に水田造成の削平は著しく、遺構を検出するまでには至らなかった。



第3図 家下遺跡発掘調査区域・地形図 (1:2000)

土層は、耕作土の直下が削平されたローム層、地山の自然礫となる所などまちまちで深さは20cmから100cmを超えるところがあり層序は安定していない。

なお、近世と思われる暗渠排水を発見しているが、遺構として認定しなかったため、図示しなかった。なお、位置関係については原図に示してある。

III 発見した遺物

調査の結果、図示することはできなかったが黒曜石を1点発見しただけで、縄文時代の遺構を検出するまでには至っていない。

IV ま と め

本調査は道路の拡幅という狭い範囲の調査であった上に、当地方では一般的に見られることであるが、高い所は削り低い所を埋めることで少しでも平坦な耕作地をつくりだす努力が延々と続けられてきているが、本調査はその削られた部分であったこともあり、黒曜石が出土しただけで、遺構を確認するまでには至らなかった。

いずれにしろ調査地点は尾根の緩やかな南斜面で、遺跡の外縁部にあたることは容易に想像できるもので、2次にわたる緊急発掘調査同様、当地方における小規模遺跡の外縁部のあり方の一端を窺うことができたといえよう。

引用参考文献

- 1974 07 諏訪清陵高等学校地歴部考古班「原村の考古学的調査 上」(「土」8)
- 1980 03 長野県教育委員会「昭和54年度 八ヶ岳西南麓遺跡群分布調査報告書」
- 1985 07 原村役場「原村誌 上巻」
- 1994 03 原村教育委員会「原村の埋蔵文化財小報12 家下遺跡調査報告書 平成5年度県営ほ場整備事業恩前地区に伴う立ち会い調査」
- 1998 03 原村教育委員会「原村の埋蔵文化財46 家下・關盧沢遺跡(第2次発掘調査)平成9年度県営担い手育成基盤整備事業弘沢地区に先立つ緊急発掘調査報告書」



調査地区遠景（西から）



調査風景

報告書抄録

ふりがな	いえしたいせき							
書名	家下遺跡(第3次発掘調査)							
副書名	平成12年度県単道路改良事業に先立つ緊急発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	原村の埋蔵文化財							
シリーズ番号	59							
編著者名	平出一治							
編集機関	原村教育委員会							
所在地	〒391-0192 長野県諏訪郡原村12080 ☎ 0266-79-7930							
発行年月日	西暦 2001年03月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 度分秒	東経 度分秒	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
いへ 家下	ながのけんすわぶら 長野県諏訪郡 原村弘沢	203637	26	35度 57分 50秒	138度 12分 53秒	20000918 ～ 20000928		平成12年度県 単道路改良事 業 (県道弘沢・茅 野線)
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
家下	包蔵地	縄文時代				黒曜石		

原村の埋蔵文化財59

家下遺跡 (第3次発掘調査)

平成12年度県単道路改良事業
に先立つ緊急発掘調査報告書

発行日 平成13年3月

発行 原村教育委員会

〒391-0192 長野県諏訪郡原村

TEL 0266-79-2111

印刷 もえぎ企画書籍

〒394-0043 岡谷市御倉町2-21

TEL 0266-22-4892

